

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700527		
法人名	医療法人 吉誠会		
事業所名	グループホーム 菜の花	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県都城市高城町穂満坊496-3		
自己評価作成日	平成22年6月10日	評価結果市町村受理日	平成22年9月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4571700527&amp;SCD=320">http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4571700527&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成22年7月23日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者が楽しく過ごせるように、一人ひとりに気を配って声かけし、ゆとりあるケアに取り組んでいる。  
季節感を感じてもらえるように、外出訓練を取り入れ、誕生日会等、外部から来て頂き、踊りや交流を図れるようにしていきたい。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食堂のテーブルには、利用者が座る各々の位置に、蓋に穴を開けてストローを付けた、280ml入りのペットボトルにお茶を入れて常時置いてあるので、利用者がいつでも自由に水分補給ができるように配慮と工夫がされている。おやつは利用者個々の力を生かしながら、利用者職員と一緒に作り、談話しながら食べている。また、職員は利用者の排泄パターンに応じた個別の支援を行っており、利用者の中には入居前はオムツを使用していた方がトイレでの排泄ができるようになり、本人や家族から喜ばれている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念について理解し、理念を基本とした支援に取り組んでいる。又、職員同士で理念に沿った支援の方法や評価を、会議を通じて話し合う。		これまでの理念を見直し、管理者・職員全員で地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム独自の理念を作り上げている。全ての職員が理念を共有して実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の社会資源の活用が少なく、ボランティアの受け入れや地域住民との交流が少ない。		散歩時等、地域の人たちとあいさつを交わしたり、話をしているが、近隣に住む人たちとの触れ合う機会が少ない。	地域住民の一員として、自治会等に参加するなど、地域住民との交流に更なる積極的な取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	話し合いや取り組みは、出来ていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヵ月ごとに行われており、地域代表者の参加もある。ホームの活動や運営についての報告もなされている。		会議では、事業所の取り組み内容や具体的な課題を話し合うなど双方向的な会議となるよう配慮している。そこでの意見はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	諸事情により、推進会議での交流にとどまっているが、今後は取り組んでいきたい。		市担当者は、運営推進会議にもメンバーとして参加してもらっており、必要な資料を届けてもらうなど気軽に相談できる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の窓などは常に開放するように心掛けている。玄関の施錠については、開放に向けて取り組もうと思うが、周囲が国道に隣接しており、交通量が多い為、現時点では行っていない。		管理者及び職員は身体拘束の内容とその弊害を認識してはいるが、安全面が優先されて玄関は常に施錠されている。	利用者の安全を確保しつつ、抑圧感の無い自由な暮らしを支援するための工夫など、積極的な取り組みをして欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	御利用者の状況に合わせて、現在のケアが虐待につながっていないかの検討を会議の中で行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御利用者の方々には利用される方がいない為、活用例はない。パンフレットなどは用意されている。研修には参加している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退居が必要な御本人や御家族に対して、十分に説明して、同意を得、納得した上で署名、捺印をいただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の受付者は、管理者が担当になっている。御家族からの要望、苦情等、業務会議で伝達し、全職員が確認できるように運営している。	家族の来訪時や電話などでの声かけ、意見箱の設置をしているが、家族などからの意見や要望を伝えられる機会づくりが十分とはいえない。	家族などが職員に意見、不満、要望などを気軽に表せる場作りの工夫等積極的な取り組みを期待したい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1度業務会議を開き、意見や提案を聞いている。	管理者は、職員が意見や要望を言いやすい雰囲気作りに努めてはいるが、運営者には職員の意見や要望が十分に把握しきれていない可能性もある。	現場職員からの意見や要望などを聴く機会を持ったり、意見を言いやすい環境作り等の工夫をしてほしい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へ積極的に派遣している。自主研修の案内も随時行い、参加を呼びかけている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三股・都城地区グループホーム連絡協議会で2ヶ月に1回、情報交換や勉強会などネットワークが出来ている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフは、御本人の要望や不安をふまえた上で、ケアやコミュニケーションを図り、安心した関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の記録書類に目を通し、なるべく御本人の希望に沿う様に努力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できるだけ、御本人・家族の意向をふまえて、必要な支援なども提案出来るよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑の野菜の収穫時期、手段など、教わりながら一緒に作業している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人の誕生日に御家族を呼ぶなどして交流を深め、スタッフと話しやすい環境を作るように、心掛けている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由に来れるが、馴染みの場所へは御家族にお願いし、支援して頂く。	家族の協力を得ながら、墓参りや利用者宅の仏前に線香を上げに行ったり、春には自宅近くの竹山でたけのこ狩りをするなど、利用者のこれまでの生活の継続を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル位置などに気を配っている。洗濯物を皆でたたんで下さっている。レクレーションなど、御利用者同士が関われるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設、隣接の所に行かれた時は、面会などに行き、相談や支援に努める。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族とも話し合いを行いながら、できるだけ御本人の意向や希望に添えるように取り組んでいる。	日々のかかわりの中で声かけをし、利用者の行動や表情から本人の意向や思いの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴などの情報を把握し、ケアに活かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターンを把握し、精神的に落ち着いて生活していただけるよう、ケアに努めている。洗濯物たたみ、食事の準備、掃除等できることは、その日の体調に合わせて取り組んでもらっている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族、スタッフの意見を取り入れながらプランの見直しを行い、介護計画を作成している。	日ごろ頃のかかわりの中で、本人や家族の意向を聴き、職員の意見を出し合いながら利用者本位の介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践に基づいた個々の記録を行い、申し送りノートで伝達し、スタッフ間で相談している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	老健施設、病院、特老などと連携し、要望に添えるよう柔軟に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御利用者の友人、知人が時々訪問して会話してもらったり、暮らしていた近隣の方の訪問があり、一緒に会話してもらっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時の対応を考え、母体法人系列施設のクリニックをかかりつけ医としている。常に診察して頂いており、適切な医療を受けている。また、クリニックにない科についてはDrより紹介して頂き、受診を行っている。	利用者および家族の意向を大切にしながら、協力医療機関が主な掛かりつけ医となっている。受診結果に関する情報も共有できている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を導入しており、専門の看護師とスタッフにも看護師2名、配置して支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御利用者は併設病院が主治医となっており、緊急な場合の対応、定期的な受診等の医療が受けられる環境にある。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約の段階で看取りの指針についての説明を行っている。かかりつけ医とのムンテラを随時行っている。	重度化した場合の対応のあり方については、本人や家族の意向を踏まえ、医師・職員と連携を取り、対応方針の共有を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	処置の仕方について看護師より、指導を受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画を立て、定期的に訓練を行っている。	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っているが、地域との協力体制ができていない。	事業所だけの訓練ではなく、日ごろから地域住民や警察署、消防署などとの連携を図りながら、協力体制を築く取り組みをしてほしい。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、御利用者一人ひとりを尊重した対応や御本人に合わせた言葉かけや対応を行っている。		職員は、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないように、日常的に心掛けている。利用者のケース記録類が食堂を兼ねたフロアのボックスに常置されており、容易に手に取れる状態になっている。	個人情報の守秘義務について管理に配慮して欲しい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者の目線でゆっくり話したり、御本人の訴えを十分聞くよう心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事、外出等へ参加したくないときは無理強いなどしない。御利用者の状態に合わせて個別にできることを優先させて、御利用者のペースで過ごせるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着はできるだけ自分で選んでもらうようにしている。美容師に訪問してもらっている。髪型や髪染めは、御本人の意見を聞いてもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝、夕食作りを職員が行っており、自家菜園で収穫されたものを使って食べて頂く。職員も御利用者と同じ物を食べている。		炊飯はホームで行っているが、副食の献立や調理は併設の厨房で行っている。職員は食事介助をしており、検査者だけが一緒に食事をしている。食後のテーブル拭きや食器の片づけなどは利用者と一緒にしている。	利用者と職員と一緒に食事を味わい、会話を交えながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援について、運営面を含めた配慮をしてほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御本人の摂取量や嗜好を観察しながら、個人に応じた量を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行っている。重度の方は、職員の方でお茶を使い、スポンジブラシで行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、日中は排泄パターンや仕草などを察知し、自立に向けた支援を行っている。		自室でのポータブルトイレの使用など、利用者一人ひとりの習慣やパターンに応じた個別の排泄支援がされている。利用者の中には入居前はオムツを使用されていた方がトイレでの排泄が出来るようになってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ペットボトルを用意し、常に水分補給をして頂く様に心掛けている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて、シャワー浴や入浴を楽しめるようにしています。		利用者が入浴を楽しめるように、しょうぶ湯やゆず湯を利用したり、言葉かけなどくつろいだ気分で入浴できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の散歩や体操など行っている。御利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。眠れない御利用者には、温かい飲み物を飲みながら、しばらく話し相手になるなど支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容を把握できるように、御利用者一人ひとりの薬剤シートがファイルされており、日にちを入れ、御利用者へ正しく服薬できるように支援している。症状の変化はその都度、看護師へ報告している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲で洗濯物干しや洗濯物たたみ、食器洗い、日常生活の中に一人ひとりの楽しみごとの役割、出番を作り出す取り組みをしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御利用者の希望があれば、買い物や戸外にと職員が付き添い、出かけられるようにしている。		近隣の散歩や買い物など本人の希望を取り入れて外出している。また、墓参りや季節に応じて花見など、普段は行けない場所にも出かけられるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのスーパーと一緒に買い物に出かけ、御本人よりお金を預かって支払いをする。散髪など自由に使える金銭は、おこづかい帳につけている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいる息子さんや娘さんから定期的に電話があつて会話されたり、御本人から依頼があつた時には電話の取り次ぎをしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光もよく、浴室、トイレなども手すりが設置され、御利用者が安心して生活できるようになっている。	食堂を兼ねたフロアには五色の短冊に利用者の願い事が書かれた七夕が飾られている。ソファ等配置も利用者が過ごしやすいように配慮しながら環境作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1号館、2号館の共用空間の造りは異なっており、それぞれのくつろぎスペースとして、心地よいものになっている。ソファなど置いてあり、御利用者同士腰掛け、会話が弾んでいる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御利用者占有としての個性的な居室になっている。仏壇やタンスなど個人の持ち物が持ち込まれ、時計や季節を知らせるカレンダーが置いてある。	仏壇やタンス、手鏡や化粧品など利用者にとって身近なものが持ちこまれ、本人が落ち着いて過ごせるよう工夫されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所やトイレの場所が良く分かるように表示していることで、御利用者が自分で場所を見つけていくことができる。			